

環境に関する区民アンケート 調査結果報告書

目 次

1. 調査概要

(1) 調査目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査期間	1
(4) 調査方法	1
(5) 回収結果	1
(6) その他	1

2. 調査結果

回答者の属性

① 年齢	2
② 区内居住年数	2
③ 居住地区	3
④ 住まいの形態	4
＜問 1＞ 地球環境に関する問題への関心について	5
＜問 1－2＞ 地球環境に関する問題へ関心を持った理由について	6
＜問 2＞ 地球温暖化対策の施策の重要度について	8
＜問 3＞ ゼロカーボンシティ表明の認知について	9
＜問 4＞ 再生可能エネルギー電力の導入について	10
＜問 4－2＞ 再生可能エネルギー電力を導入しない理由について	11
＜問 5＞ 「みんなでいっしょに自然の電気」の認知について	12
＜問 5－2＞ 「みんなでいっしょに自然の電気」を知った理由について	13
＜問 6＞ 省エネルギー機器等補助事業の利用について（扱っている機器）	14
＜問 7＞ 省エネルギー機器等補助事業の利用について（扱っていない機器）	15
＜問 8＞ 未利用の食品の提供について	16
＜問 8－2＞ 未利用の食品の提供をしたことのない理由について	18
＜問 9＞ 「プラスチック製品」の排出の実践について	20
＜問 9－2＞ 「プラスチック製品」の希望する排出方法について	21
＜問 9－3＞ 「プラスチック製品」の排出に協力できない理由について	22
＜問 10＞ 興味のある環境に関するワードについて	23
＜問 11＞ 環境施策に対するご意見・ご要望について（自由記述）	24

1. 調査概要

(1) 調査目的

本アンケートは、環境保全への取組状況や新宿区の環境に関する意見などを基に、新宿区第三次環境基本計画の改定の参考とすることを目的に実施した。

(2) 調査対象

区内に在住する 1,800 人（18 歳以上の区民を対象に無作為に抽出）

(3) 調査期間

令和 4（2022）年 6 月 14 日（火）～6 月 27 日（月）

(4) 調査方法

郵送による配付、回収

(5) 回収結果

配付数	有効回収数（※）	有効回収率
1,800	684	38.0%

※有効回収数とは、回収数から無効回答票を除いた数

(6) その他

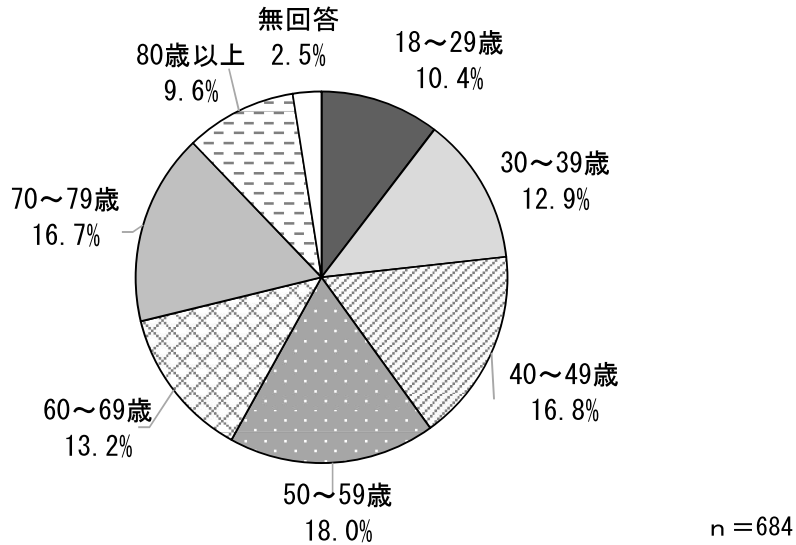
- ・結果の数値は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、単一回答であっても 100%にならない場合がある。
- ・図中の「n」は各設問における有効回答数を示す。
- ・自由記述は、原文をそのまま記載した。

2. 調査結果

回答者の属性

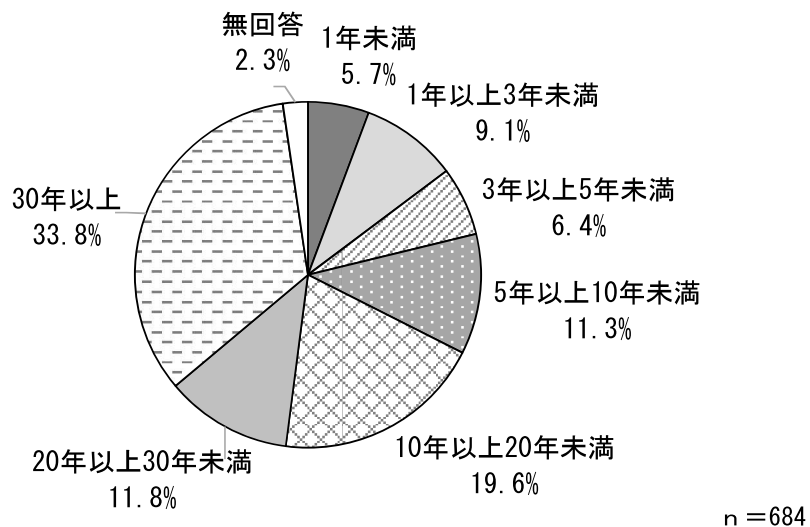
①年齢

- ・「50～59 歳」と回答した人が 18.0%で最も高く、次いで「40～49 歳」が 16.8%、「70～79 歳」が 16.7%であった。



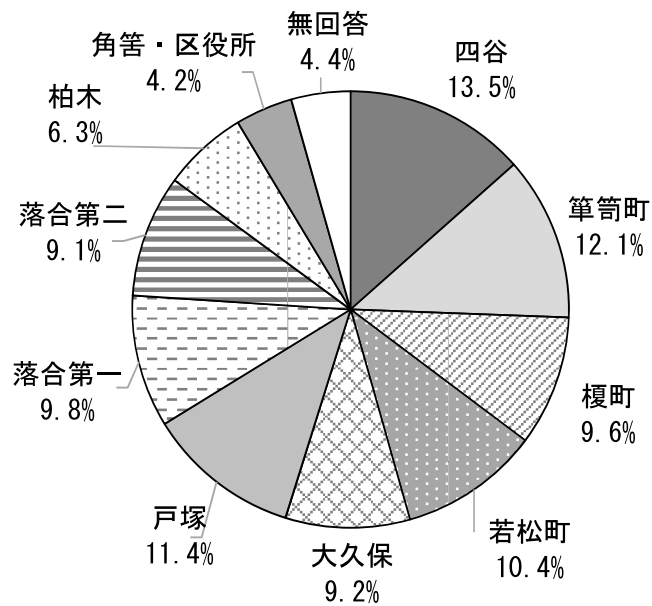
②区内居住年数

- ・「30 年以上」と回答した人が 33.8%で最も高く、次いで「10 年以上 20 年未満」が 19.6%、「20 年以上 30 年未満」が 11.8%であった。



③居住地区

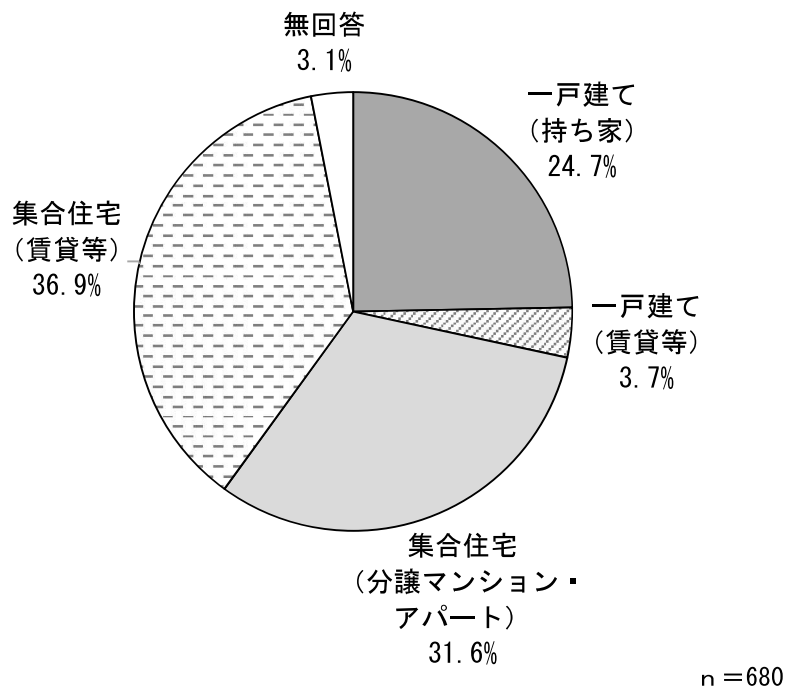
- ・「四谷」と回答した人が13.5%で最も高く、次いで「簞笥町」が12.1%、「戸塚」が11.4%であった。



n = 684

④住まいの形態

- ・「集合住宅（賃貸等）」と回答した人が 36.9%で最も高く、次いで「集合住宅（分譲マンション・アパート）」が 31.6%、「一戸建て（持ち家）」が 24.7%、「一戸建て（賃貸等）」が 3.7%であった。



一戸建て（賃貸等）の内訳	回答者数	割合
一戸建て（賃貸）	9	1.3%
一戸建て（社宅・公務員官舎）	1	0.1%
一戸建て（その他）	15	2.2%

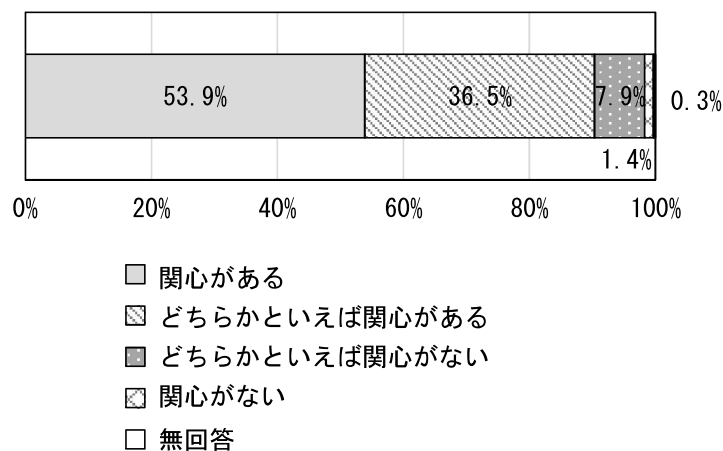
集合住宅（賃貸等）の内訳	回答者数	割合
集合住宅（賃貸マンション・アパート）	197	29.0%
集合住宅（賃貸のUR都市機構・公社のマンション・アパート）	8	1.2%
集合住宅（都営・区営住宅）	28	4.1%
集合住宅（社宅・公務員官舎）	13	1.9%
集合住宅（その他）	5	0.7%

近年、マイクロプラスチックによる海洋汚染や、地球温暖化が原因で台風が大型化するなど、地球環境に関する問題がメディア等で取り上げられることが増えています。

<問1>あなたは、こうした地球環境に関する問題に関心がありますか。

(あてはまる番号1つに○)

- ・「関心がある」と回答した人が53.9%で最も高く、次いで「どちらかといえば関心がある」が36.5%、「どちらかといえば関心がない」が7.9%、「関心がない」が1.4%であった。



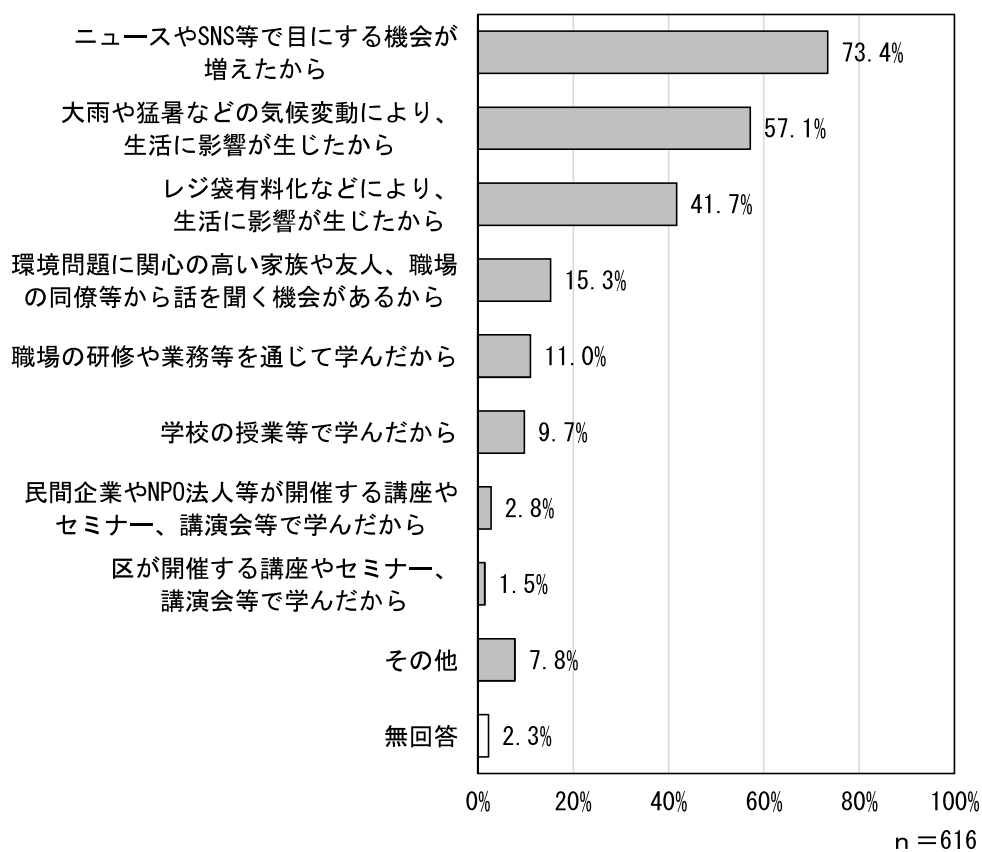
n = 684

- ・より多くの人々が地球環境に関する問題に強く関心をもつよう、普及啓発を強化する必要があると考えられる。

<問1で、1または2と答えた方に伺います>

地球環境に関する問題に関心を持った理由は何ですか。(あてはまる番号全てに○)

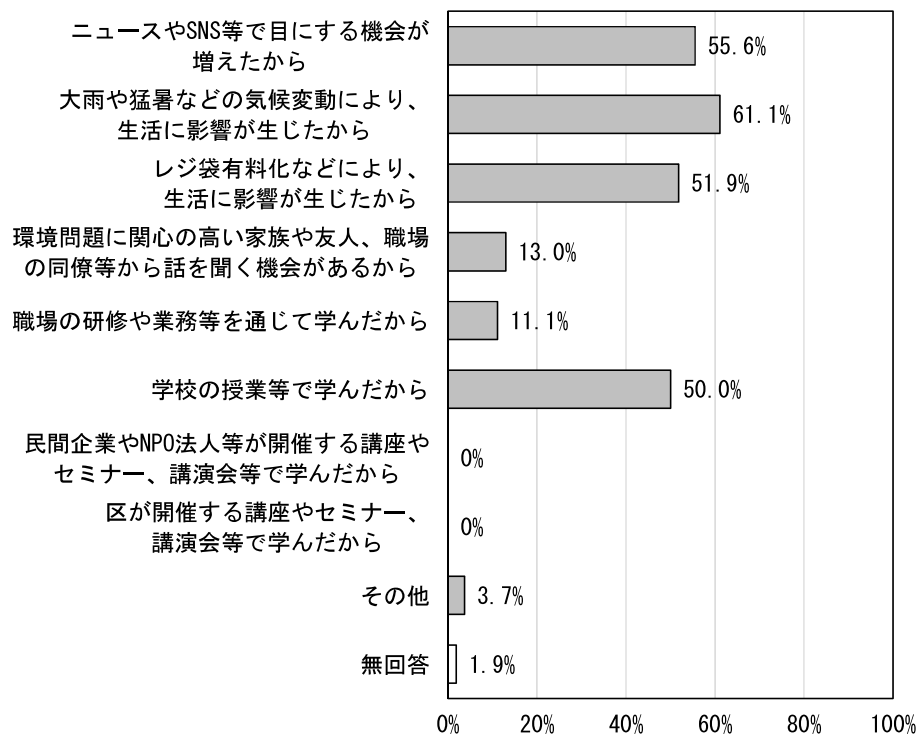
- ・「ニュースやSNS等で目にする機会が増えたから」と回答した人が73.4%で最も高く、次いで「大雨や猛暑などの気候変動により、生活に影響が生じたから」が57.1%、「レジ袋有料化などにより、生活に影響が生じたから」が41.7%であった。また、回答者が少なかった項目として、「学校の授業等で学んだから」が9.7%、「民間企業やNPO法人等が開催する講座やセミナー、講演会等で学んだから」が2.8%、「区が開催する講座やセミナー、講演会等で学んだから」が1.5%であった。
- ・年齢別では、年齢が低いほど「学校の授業等で学んだから」と回答した人の割合が高くなる傾向があり、特に18～29歳は、他の年齢層が20%未満であったのに対し、50.0%と高かった。



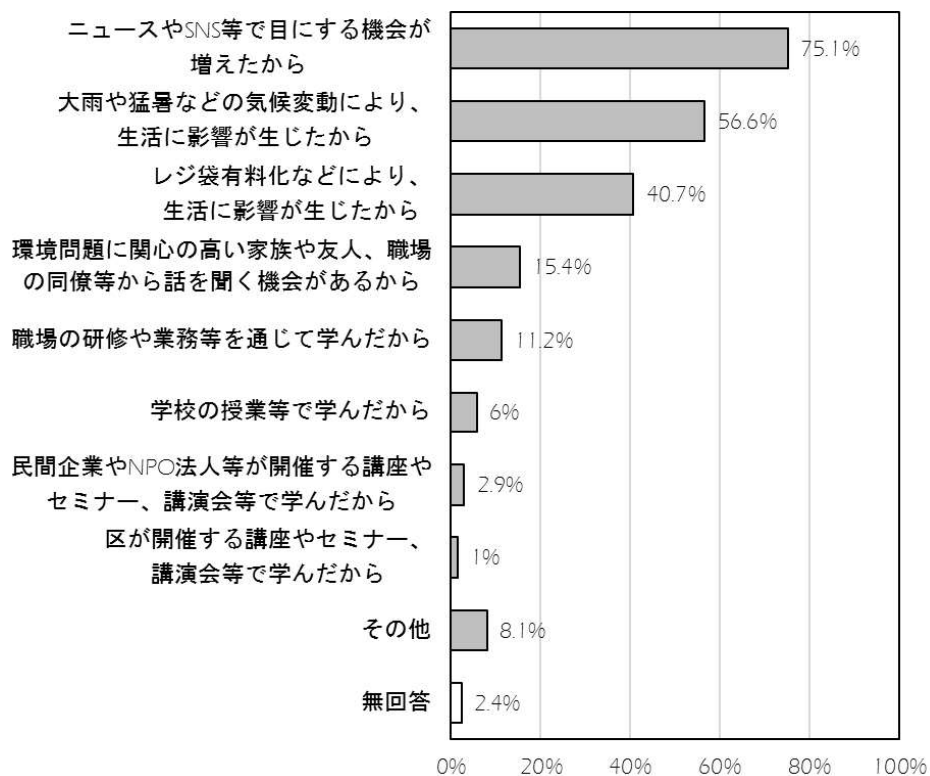
- ・区が開催する講座やセミナー、講演会等で学んだからと回答した人は少なく、区のイベントがより参加しやすく、効果的なものになるよう検討する必要があると考えられる。
- ・30歳以下では、学校の授業等で学んだからと回答した人が増えていることから、環境に関する人材育成のため、今後も環境教育に力をいれていくことが有効であると考えられる。

年齢別：地球環境に関する問題へ関心を持った理由について

<18～29 歳 (n=54) >

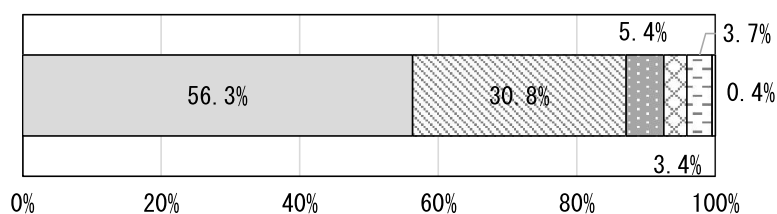


<30～80 歳 (n=546) >



＜問２＞近年、温室効果ガスの削減に向けて、世界的に様々な地球温暖化対策が進められています。こうした中、再生可能エネルギー電力の導入推進や省エネルギーの徹底等の地球温暖化への対応は、区の施策の中で重要な課題であると思いますか。
(あてはまる番号１つに○)

- ・「そう思う」と回答した人が 56.3%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 30.8%、「どちらかといえばそう思わない」が 5.4%、「わからない」が 3.7%、「そうは思わない」が 3.4%であった。



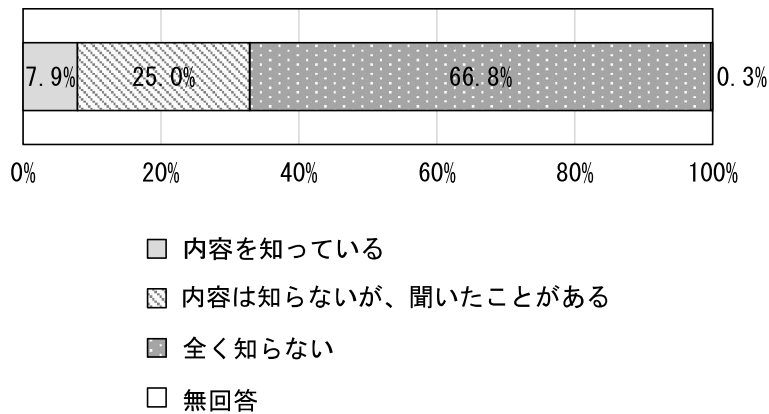
- ☐ そう思う
- ☒ どちらかといえばそう思う
- ☐ どちらかといえばそう思わない
- ☒ そうは思わない
- ☐ わからない
- ☐ 無回答

n = 684

- ・多くの人が、地球温暖化への対応は区の施策の中で重要な課題であると思っており、区として対応すべき課題を整理して取組を強化するとともに、区の実施を区民へ周知し、区民の行動変容を促すことで区全体として地球温暖化対策に取り組んでいく必要があると考えられる。

＜問３＞区は、令和３年６月に「ゼロカーボンシティ新宿」の実現に向けて取り組むことを表明しました。あなたは、区のゼロカーボンシティ表明について知っていますか。（あてはまる番号１つに○）

- ・「全く知らない」と回答した人が 66.8%で最も高く、次いで「内容は知らないが、聞いたことがある」が 25.0%、「内容を知っている」が 7.9%であった。

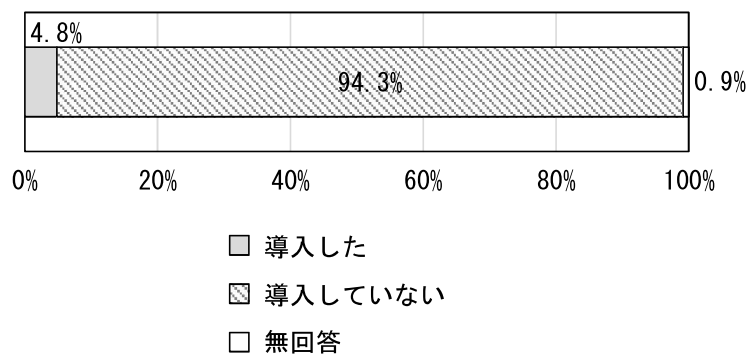


n=684

- ・「ゼロカーボンシティ新宿」表明の認知度は低く、区が目指す目標を区民に周知し、区民一人ひとりがゼロカーボンシティの実現を意識して日常生活から取組を推進するよう啓発する必要があると考えられる。

＜問４＞あなたのご家庭で、再生可能エネルギー電力を導入しましたか。
(あてはまる番号１つに○)

- ・「導入していない」と回答した人は 94.3%と高かった。一方で、「導入した」と回答した人は 4.8%だった。



n = 684

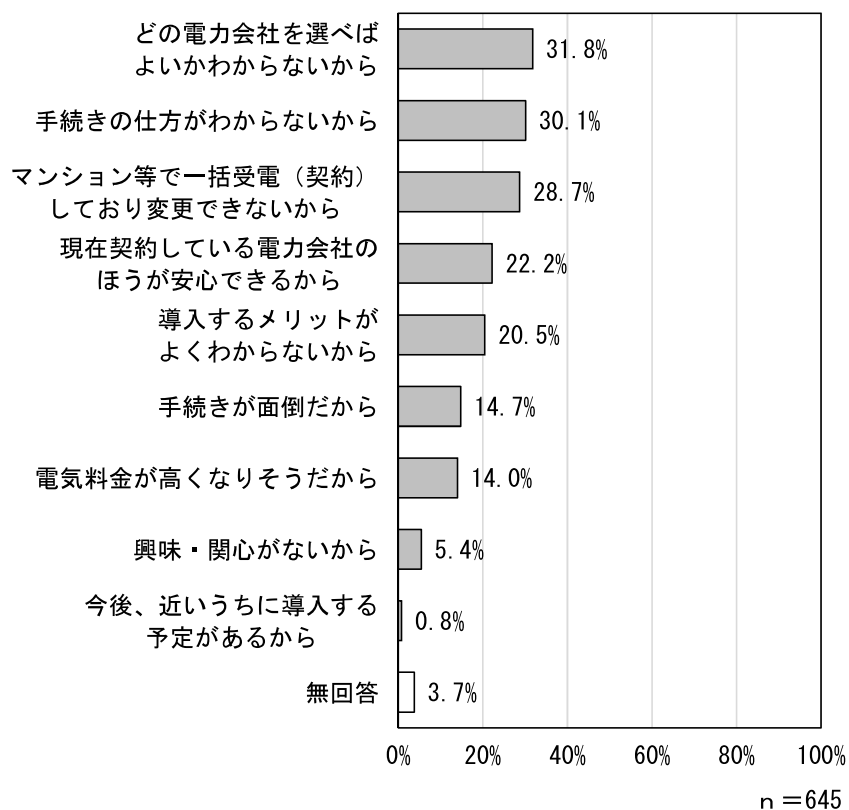
- ・家庭における再生可能エネルギーの導入は進んでおらず、導入における課題を抽出し、課題を解決する対策を講じることで導入が進むと考えられる。

<問4で、2と答えた方に伺います。>

再生可能エネルギー電力を導入していない理由は何ですか。

(あてはまる番号全てに○)

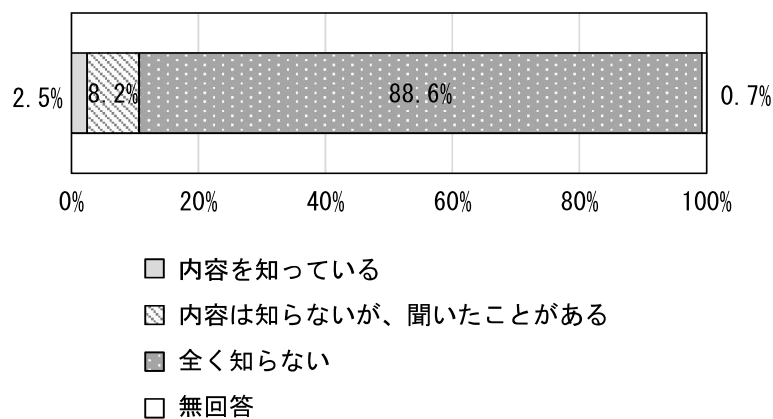
- ・「どの電力会社を選べばよいかわからないから」と回答した人が31.8%で最も高く、次いで「手続きの仕方がわからないから」が30.1%、「マンション等で一括受電（契約）しており変更できないから」が28.7%であった。また、回答者が少なかった項目として、「電気料金が高くなりそうだから」が14.0%、「興味・関心がないから」が5.4%、「今後、近いうちに導入する予定があるから」が0.8%であった。



- ・電力会社の選択、手続きの仕方、導入メリットに関する知識不足や電気料金が高くなりそうというイメージにより導入していない人が一定数いることから、それらの項目を含めた再生可能エネルギー電力に関する情報提供を強化する必要があると考えられる。
- ・マンション等で一括受電しているため変更できない人が一定数いることから、管理会社等に対し、再生可能エネルギー電力の導入を推進する働きかけが必要であると考えられる。

＜問5＞「みんなでいっしょに自然の電気」（みい電）について知っていますか。
（あてはまる番号1つに○）

- ・「全く知らない」と回答した人が88.6%で最も高く、次いで「内容は知らないが、聞いたことがある」が8.2%、「内容を知っている」が2.5%であった。



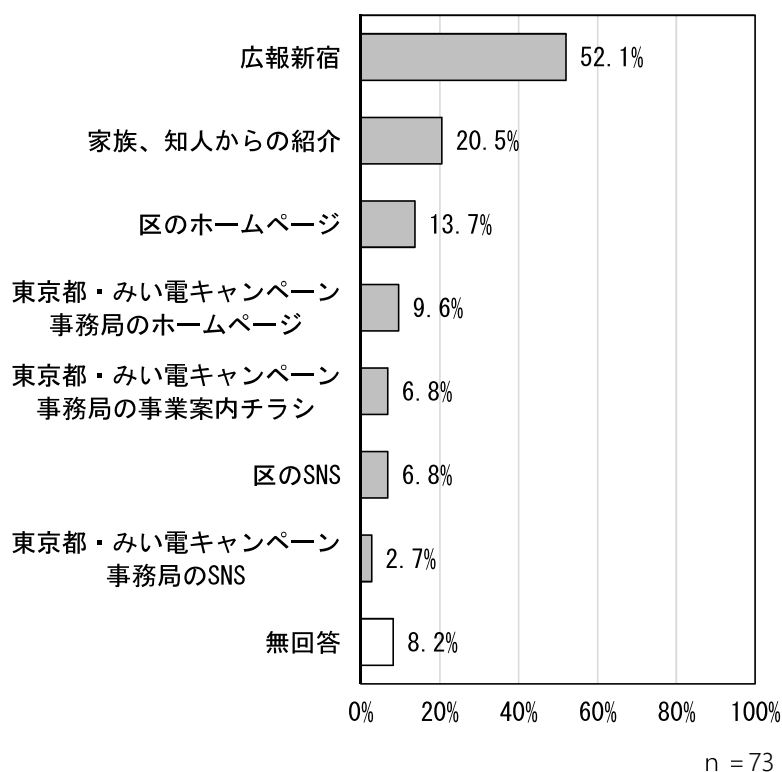
n = 684

- ・みい電の認知度は低く、再生可能エネルギー電力の導入を促進するために、みい電についての仕組みの紹介やメリット等の情報提供等を通じて、普及啓発を強化する必要があると考えられる。

<問5で、1または2と答えた方に伺います。>

「みんなでいっしょに自然の電気」（みい電）について、どのようにして知りましたか。（あてはまる番号全てに○）

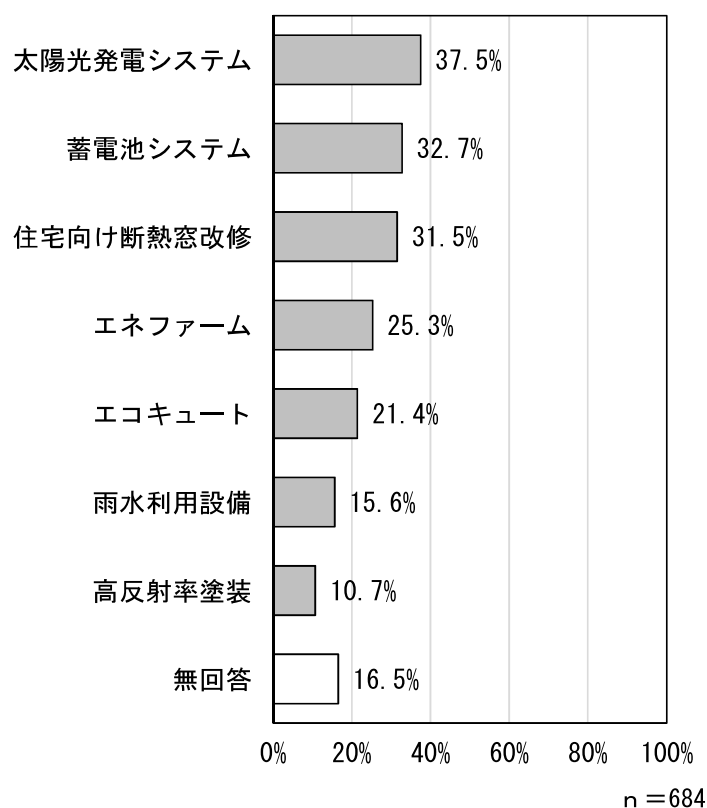
- ・「広報新宿」と回答した人が52.1%で最も高く、次いで「家族、知人からの紹介」が20.5%、「区のホームページ」が13.7%だった。また、回答者が少なかった項目として、「東京都・みい電キャンペーン事務局の事業案内チラシ」及び「区のSNS」が6.8%、「東京都・みい電キャンペーン事務局のSNS」が2.7%であった。



- ・ 区の SNS と回答した人が少ないが、SNS は若年層の情報収集媒体の主流であるため、発信頻度を増やすなど、SNS による情報提供を強化する必要があると考えられる。
- ・ 広報新宿と回答した人は最も多く、情報発信の媒体として有効であると考えられることから、他の情報提供、普及啓発についても広報に力を入れて情報提供することが効果的であると考えられる。

＜問 6＞区の省エネルギー機器等補助事業（導入経費の一部に補助金を交付する事業）で扱っている機器等のうち、あなたが今後新たに利用したいと思うものは何ですか。
（あてはまる番号 3 つまでに○）

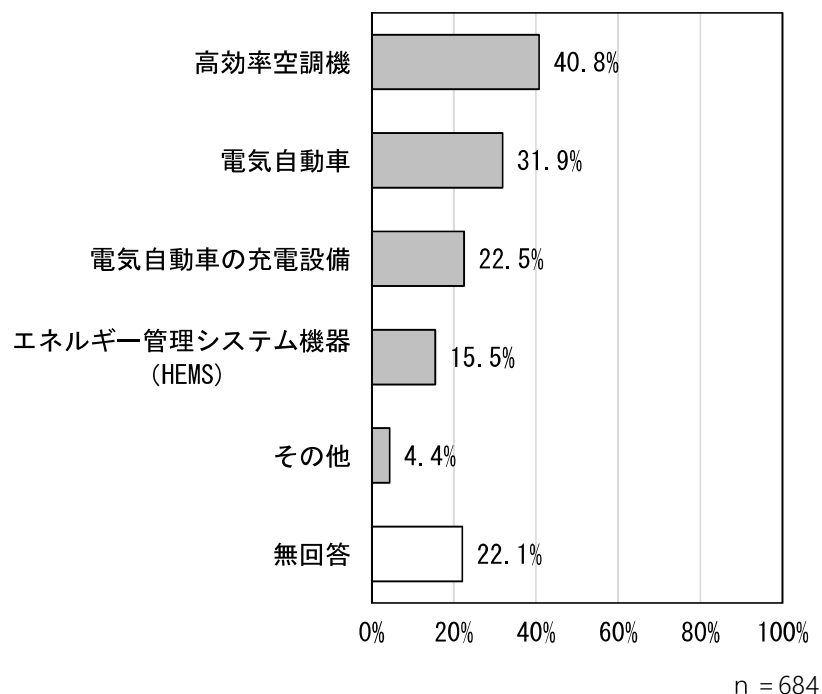
- ・「太陽光発電システム」と回答した人が 37.5%で最も高く、次いで「蓄電池システム」が 32.7%、「住宅向け断熱窓改修」が 31.5%であった。また、回答者が少なかった項目として、「エコキュート」が 21.4%、「雨水利用設備」が 15.6%、「高反射率塗装」が 10.7%であった。



- ・補助対象の機器について導入効果やメリット等を合わせて情報提供し、補助事業の利用促進を図る必要があると考えられる。

＜問７＞区の省エネルギー機器等補助事業で扱っていない機器で、あなたが今後新たに利用したいと思うものは何ですか。（あてはまる番号全てに○）

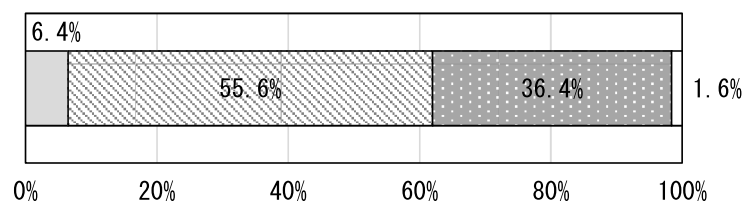
- ・「高効率空調機」と回答した人が 40.8%で最も高く、次いで「電気自動車」が 31.9%、「電気自動車の充電設備」が 22.5%、「エネルギー管理システム機器（HEMS）」が 15.5%であった。



- ・いずれの機器も利用を希望する人が一定数おり、補助対象への追加を検討する必要があると考えられる。

＜問 8＞あなたはフードドライブやフードバンクに、未利用の食品を提供したことがありますか。（あてはまる番号 1 つに○）

- ・「提供したいと思っているが、したことはない」と回答した人が 55.6%で最も高く、次いで「提供したことがなく、今後もするつもりはない」が 36.4%、「提供したことがある」が 6.4%であった。
- ・居住地区別では、「提供したことがある」と回答した人が、落合第一が最も多く 13.4%、次いで簞笥町が 9.6%であった。

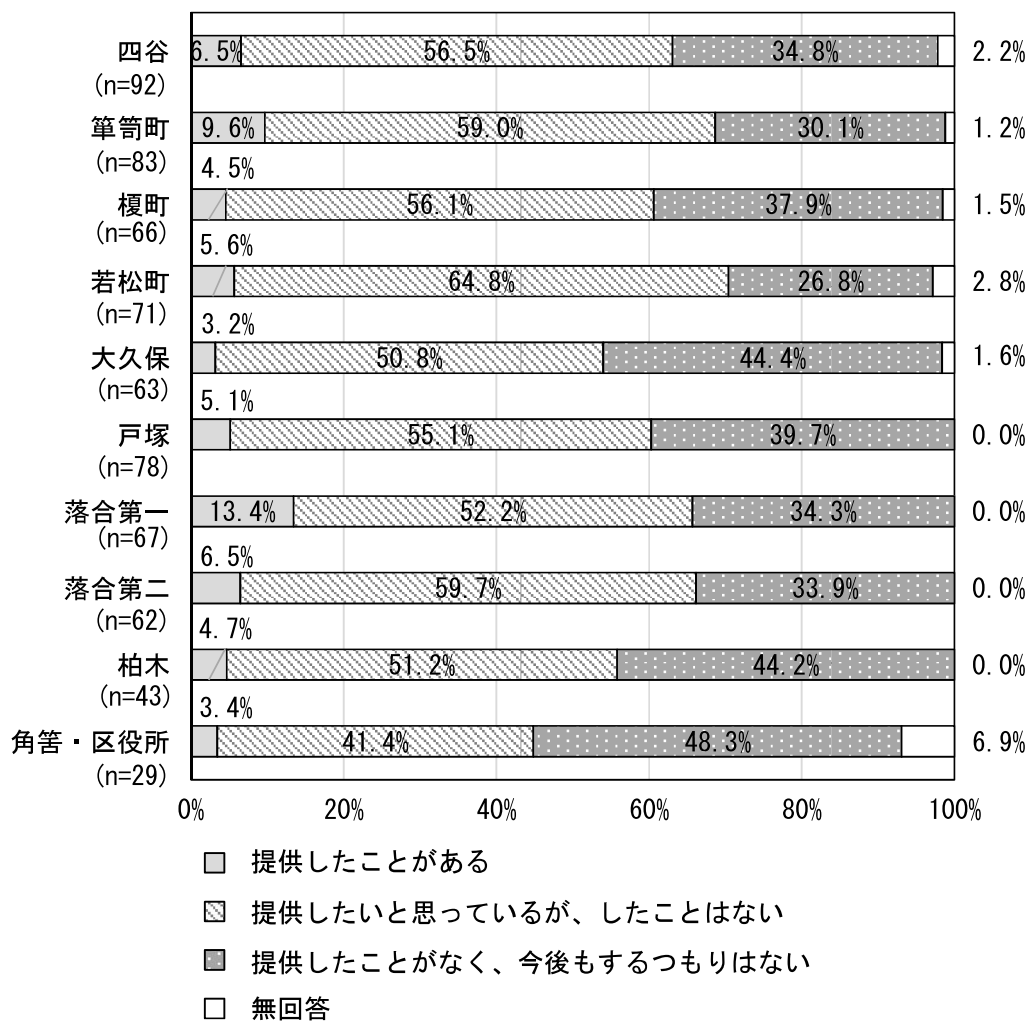


- ☐ 提供したことがある
- ☒ 提供したいと思っているが、したことはない
- ☒ 提供したことがなく、今後もするつもりはない
- ☐ 無回答

n = 684

- ・多くの人がフードドライブやフードバンクに食品を提供したことがなく、参加しやすい仕組み等を検討する必要があると考えられる。

居住地区別：未利用の食品の提供について

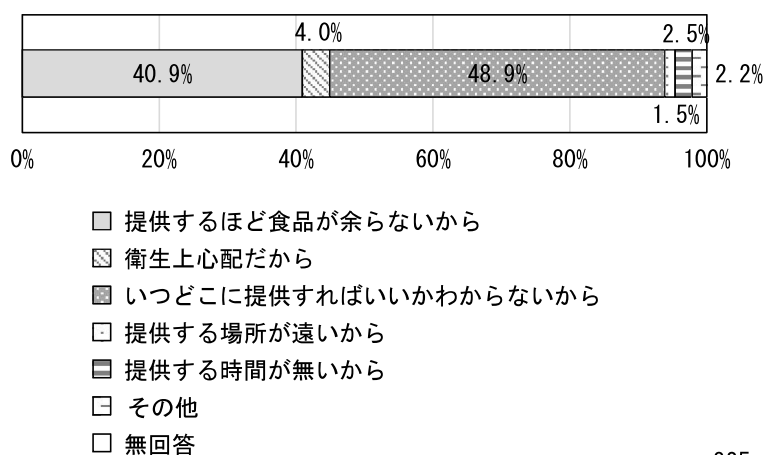


<問8で、2と答えた方に伺います。>

未利用の食品を「提供したいと思っているが、したことはない」理由は何ですか。

(最もあてはまる番号1つに○)

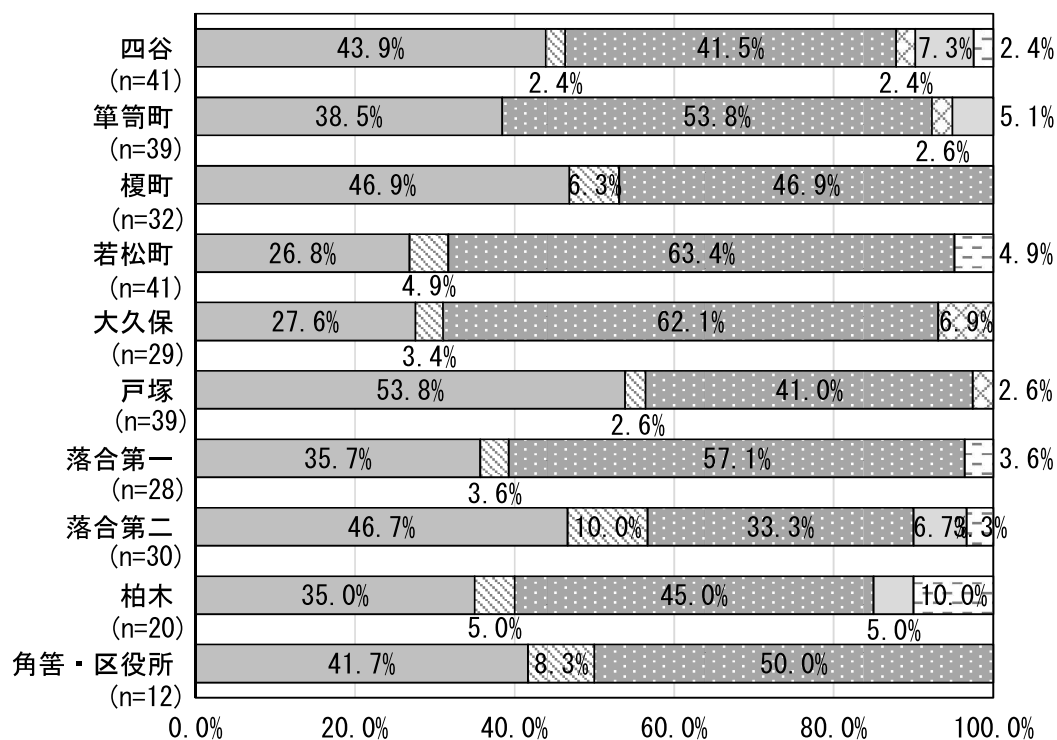
- ・「いつどこに提供すればいいかわからないから」と回答した人が48.9%で最も高く、次いで「提供するほど食品が余らないから」が40.9%であった。また、回答者が少なかった項目として、「衛生上心配だから」が4.0%、「提供する時間がないから」が2.5%、「提供する場所が遠いから」が1.5%であった。
- ・居住地区別では、「いつどこに提供すればいいかわからないから」と回答した人が50%以上であった地区は簗笥町、若松町、大久保、落合第一、角筈・区役所であった。また、「提供する場所が遠いから」と回答した人がいた地区は四谷、簗笥町、大久保、戸塚であった。



n=325

- ・現在、回収場所がある戸塚地区、角筈・区役所地区を含め、いずれの地区においても「いつどこに提供すればいいかわからない」と回答した人が一定数おり、回収場所・時間の周知を強化するとともに、回収場所の増加を検討する必要があると考えられる。

住居地区別：未利用の食品の提供をしたことのない理由について



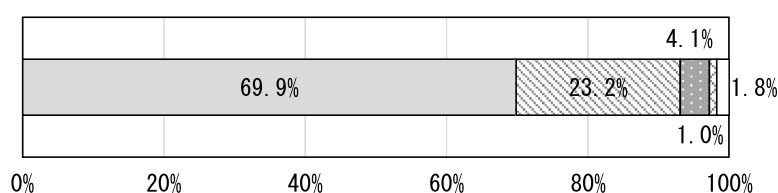
- 提供するほど食品が余らないから
- ▨ 衛生上心配だから
- いつどこに提供すればいいかわからないから
- ▩ 提供する場所が遠いから
- 提供する時間が無いから
- その他
- 無回答

<問9>現在、区では「容器包装プラスチック」を資源として回収しています。

区は更なる資源化に向けて、「プラスチックでできている製品」も資源として回収するよう検討しています。

「プラスチックでできている製品」の排出方法で、あなたが実践できることは何ですか。(あてはまる番号1つに○)

- ・『「全てプラスチックでできている製品」と、「主にプラスチックでできている製品」を併せて資源として排出する』と回答した人が69.9%で最も高く、次いで『「全てプラスチックでできている製品」のみを資源として排出する』が23.2%、『「プラスチックでできている製品」を資源として排出することに協力できない』が4.1%であった。



「全てプラスチックでできている製品」と、
☐ 「主にプラスチックでできている製品」を
併せて資源として排出する

☒ 「全てプラスチックでできている製品」
のみを資源として排出する

☐ 「プラスチックでできている製品」を
資源として排出することに協力できない

☐ その他

☐ 無回答

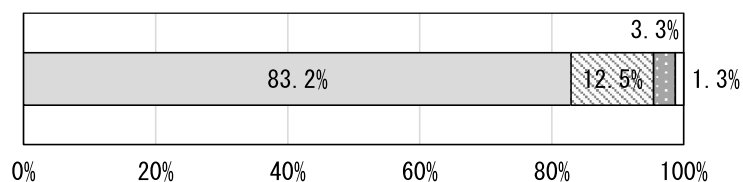
n = 680

- ・90%以上の人「プラスチックでできている製品」を排出することができると回答しているため、「プラスチックでできている製品」の回収は可能であると考えられる。

＜問9で、1または2と答えた方に伺います。＞

あなたが、「プラスチックでできている製品」を資源として排出する場合、どのような排出方法を希望しますか。(あてはまる番号1つに○)

- ・『「容器包装プラスチック」と一緒に排出する』と回答した人が83.2%で最も高かった。一方で、『「容器包装プラスチック」とは別の日に排出する』が12.5%であった。



- ☐ 「容器包装プラスチック」と一緒に排出する
- ☒ 「容器包装プラスチック」とは別の日に排出する
- ☐ その他
- ☐ 無回答

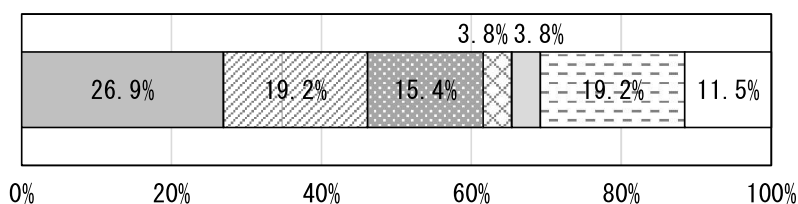
n = 631

- ・「容器包装プラスチック」と一緒に排出する方法を希望する区民が多いことを考慮して回収方法を検討する必要があると考えられる。

<問9で、3と答えた方に伺います。>

あなたが、「プラスチックでできている製品」を資源として排出することに協力できない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○)

- ・「分別が面倒、手間が増えるから」と回答した人が26.9%で最も高く、次いで「分別方法がよくわからないから」が19.2%、「分別することによるメリットがわからないから」が15.4%であった。また、回答者が少なかった項目として、「分別しなくても、ごみとして収集してもらえるから」及び「自宅にごみを置きたくないから」が3.8%であった。



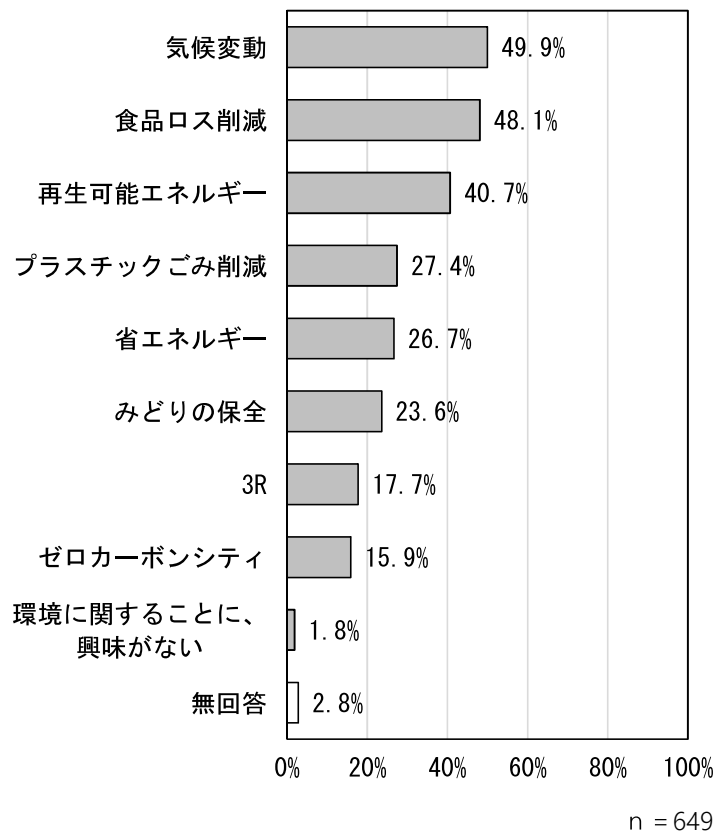
- ☐ 分別が面倒、手間が増えるから
- ☒ 分別方法がよくわからないから
- ☐ 分別することによるメリットがわからないから
- ☒ 分別しなくても、ごみとして収集してもらえるから
- ☐ 自宅にごみを置きたくないから
- ☐ その他
- ☐ 無回答

n = 26

- ・分別方法、分別するメリットに関する知識不足により協力できない人が一定数いることから、それらの項目を含めた分別に関する情報提供を強化する必要があると考えられる。

＜問 1 0＞環境に関することで、あなたが興味のあるワードはありますか。
 （あてはまる番号 3 つまでに○）

- ・「気候変動」と回答した人が 49.9%で最も高く、次いで「食品ロス削減」が 48.1%、「再生可能エネルギー」が 40.7%であった。また、回答者が少なかった項目として、「3R」が 17.7%、「ゼロカーボンシティ」が 15.9%、「環境に関することに、興味がない」が 1.8%であった。



- ・「環境に関することに、興味がない」と回答した人は 1.9%であり、環境に関して興味をもつ区民がほとんどであった。
- ・興味が低かった項目に関して区民への情報提供の充実を図る必要があると考えられる。

<問 1 1>区の環境施策に対し、ご意見・ご要望があれば、ご自由にご記入ください。

No.	記述内容	年齢
1	義務教育（小・中学校）の授業で、もっと積極的に環境問題について学ぶ機会を増やしてほしいと思います。	50～59 歳
2	何も具体的な行動はとくにしていないものの、環境問題について関心がある方だと自分では思っていたのですが、今回のアンケートでいろいろな施策について、何も知らないことに気づきました。わかりやすくまた気軽に参加できる取り組みと、その周知について、力をいれていただきたいと思います。	50～59 歳
3	アンケートを通して区の環境施策を知るきっかけになりました。	30～39 歳
4	効率の悪い事務も、環境に悪影響なので、流行にとらわれず、有効な対策を検討してください。	50～59 歳
5	夏に向って飲食店街のごみ処理に気をつけて頂きたい、早朝のきたなさが目立ち悪臭がする。個人店の注意が必要と思う。	80 歳以上
6	フードドライブに食品をもっていきたいですが、よう日や場所がきまっていってなかなかもっていけない。区役所や出張所でもひきとってほしい。	30～39 歳
7	安易な太陽光発電の推進には反対します。災害リスク、廃棄問題、中国依存等	40～49 歳
8	今回のアンケートに回答することによって知った新宿区の取組（「ゼロカーボンシティ新宿」「省エネルギー機器等補助金事業」）10 都県市による取組があります。都や区のホームページ、広報には限界があり、今回のようなアンケートの対象を、できるだけ広くして実施することも、区や都の取組の広報の一方法と思います。	70～79 歳
9	宣伝アピールが足りないと思います。良い施策も伝わらなければもったいない。どんどんアピールして下さい。	40～49 歳
10	今回のようなアンケートを Web 上でできたら楽だし集計も楽なんじゃないかと思いました。	18～29 歳
11	このようなアンケート調査を行って下さりありがとうございます。益々環境問題について、1 人 1 人が行動できるきっかけになると思いました。	50～59 歳
12	環境施策に取り組める人、取り組めない人様々ですが、1 人 1 人の出来る範囲で継続し環境の改善・区の目標達成が出来ると良いです。	30～39 歳
13	区として行っていることを何も知らなかった。広報活動に力を入れてほしい。You tube 等なら見たいと思う。	30～39 歳
14	「ゼロカーボンシティ新宿」の取り組みを全く知らなかった。環境にやさしいまちづくりは大切なことだと思うので、区をあげて行うのは良いと思う。できることがあれば協力していきたい。	30～39 歳

(抜粋)